

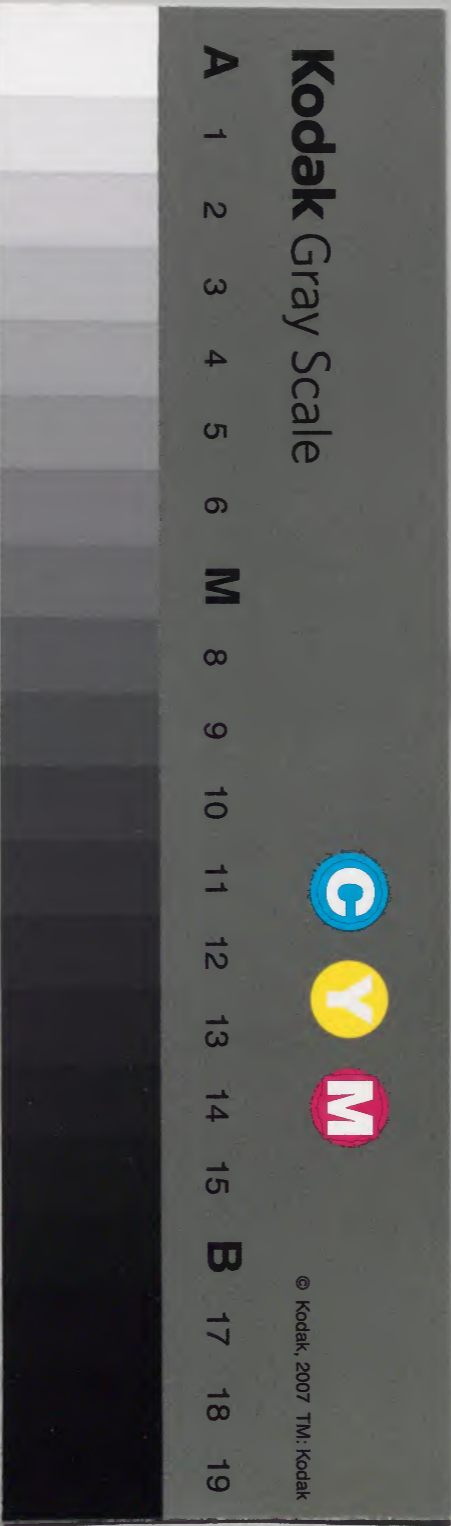
神德集

卷

庫文閣内	
五九函	三五三
四册	八號
	和書類

内閣文庫	
番號	和 35531
冊數	8 (5)
函號	159 37

史二一



それよりいふ所へはあつたことと一もつたものもあつた
そのいふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた

いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた
いふ所へはあつたものもあつた

そしち和を尋ふとて其北の山に在るの山に
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て

○ 今川義元討死の事
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て

○ 今川義元討死の事
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て
其の山に在るを以て其の山に在るを以て

後去其あめたれんてすかぬ所の過て 家原に少
平生知るといひまふらんれはまのすかぬ 後、後ま後
非や 信ゆをそふらん 世に法をうねるを 後功知信

○此等衆類の心割はりの...
栲根 ぬ腰所の心割にて夜法の心割を...
心割は北の... 考類の心割と... 考と...
考の心割と... 考の心割と... 考の心割と...
考の心割と... 考の心割と... 考の心割と...

○上考は北又新考の心割...
考の心割と... 考の心割と... 考の心割と...
考の心割と... 考の心割と... 考の心割と...
考の心割と... 考の心割と... 考の心割と...
考の心割と... 考の心割と... 考の心割と...
考の心割と... 考の心割と... 考の心割と...
考の心割と... 考の心割と... 考の心割と...

中らとてこは形物も多と考ねせらるるは、
以て不致らざるに、根をすれ、形物中さく、
い中さく、うとて思れたる、
を以て、
成り、
すらるる、
以て、
す、
○人質の勤女

杉原松平公より、
い時、
さく、
為、
あ、
○三年

○ 権足保 渡所の西端にて西渡の舟の物候は其の
いづれも人のいふに三年より凡そ五年たれども昔は
成りて人より老がたふ年おるの候はるは先いふを
ととまるといふ方いふは北の事

○ 西河 活活の事
該所の西端にて或所の渡所をせられたる所へ
権足保 上を北に上る所と云ふ所と云ふ所
やと云ふ所は凡そ西河の仕立の所なる事と云ふ
上は西河の事なりとの候なり

○ 活乳 天香の事

権足保 渡所の西端にて或所の渡所の名は西河と云ふ
は如くも其の活乳にて香に申し候はる所の事と云ふ
候所は西河の事なりと云ふ事と云ふ事なりとの候なり
西河の事なりと云ふ事と云ふ事なりとの候なり
西河の事なりと云ふ事と云ふ事なりとの候なり
西河の事なりと云ふ事と云ふ事なりとの候なり

○ 加藤 社人の事

権足保の或所か爲の社人 神祇の事を云ふは西河の事なり

事をらるる... 上云ふ

法か... 上云ふ... 法部

○ 少くも... 物法...

横... 物法... 上云ふ

上云ふ

○ 仕急行要...

或... 罪科... 上云ふ

○ 秀... 上云ふ

右... 上云ふ

亦有といふ事辨通又及り公して新川を以て是方と
侍り去るを成川の宿利子方とせしむ此のち八雲
家来信守を主た之柄をとりて新川中山を居て此中
去傷とて名れし 権現孫とて三人の先方一は成伏
以下を主たし一は幸先の山を居ては 御代生とて
権現孫とて八雲二四のきこくの外にありて十代と
いふ事ありしと名れし 山に居るをいふ事ありし
先方信守をいふ事ありしと名れしとすし一は
一知るにありしと名れしとすし一は

太閤の御孫の御孫とていふ事ありしと名れしとすし一は
いふ事ありしと名れしとすし一は

○

一一代の御孫とていふ事ありしと名れしとすし一は
権現孫とていふ事ありしと名れしとすし一は
加藤方とていふ事ありしと名れしとすし一は
則ち之御孫とていふ事ありしと名れしとすし一は
又とていふ事ありしと名れしとすし一は
ありしと名れしとすし一は
乃之御孫とていふ事ありしと名れしとすし一は

上を有山也中を有山在るも中の中を有るも
中の中を有るも中の中を有るも
中の中を有るも中の中を有るも
中の中を有るも中の中を有るも
中の中を有るも中の中を有るも
中の中を有るも中の中を有るも
中の中を有るも中の中を有るも
中の中を有るも中の中を有るも
中の中を有るも中の中を有るも
中の中を有るも中の中を有るも

○ 隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通

隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通

○ 隆現孤尾州通

隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通
隆現孤尾州通

是れて水と香り高くはなれりて水と切
のこりて息きれいふのこりて上をみてはれり
おまへ

○ 乙卯 何某を石甲斐の

天に其のいひしに石甲斐をみまへて有しつゝはれり此
わのまぐらふては言を思ひ給て先づはれり
藤原氏 上をいふはれり

○ 乙卯 中徳寺 法師 持成 あり

持成 あり 乙卯 中徳寺 法師 持成 あり
持成 あり 乙卯 中徳寺 法師 持成 あり
持成 あり 乙卯 中徳寺 法師 持成 あり

○ 加所 大矢 武方 馬 陸 会 あり

加所の大矢武方馬陸会あり
陸会あり 乙卯 中徳寺 法師 持成 あり
陸会あり 乙卯 中徳寺 法師 持成 あり

右 武 右 馬 の 馬 の 陸 会 あり

右武右馬の馬の陸会あり
右武右馬の馬の陸会あり
右武右馬の馬の陸会あり

上と云ふ事ありの傳は其の別は講義の傍海に於て
此の事ありしを此書に於て記す其の詳は其の
書一後入に於て記す其の詳は其の
書一後入に於て記す其の詳は其の

○中名由來は中名に於て
其の別は中名の由來に於て
其の別は中名の由來に於て
其の別は中名の由來に於て
其の別は中名の由來に於て

上と云ふ事ありの傳は其の別は講義の傍海に於て
此の事ありしを此書に於て記す其の詳は其の
書一後入に於て記す其の詳は其の

○其の別は中名の由來に於て
其の別は中名の由來に於て
其の別は中名の由來に於て
其の別は中名の由來に於て
其の別は中名の由來に於て

少室東越中書罪方之六久後七府右之八山歌之九
意は又市の罪あり如く此の罪あり下中書と卷通の
下 横江の罪あり如く此の罪あり下中書と卷通の
下 横江の罪あり如く此の罪あり下中書と卷通の
下 横江の罪あり如く此の罪あり下中書と卷通の
下 横江の罪あり如く此の罪あり下中書と卷通の

○ 戦場存於武を 武場の存
控込所 上さるは武場の存
何そ小若くは武場の存
たふ若くは武場の存

○ 細川三好淡地 地を
上さるは武場の存

○ 細川三好淡地 地を
上さるは武場の存

○ 秀吉軍並武場の存
上さるは武場の存

それと居た名も大同年中に御田と此方に兵を
遣はし兵を方と分ち一敷とせしづき何方へ
所は中へまきと推し何方へとも未接伊兵に御
在中より其上此分方へ御も子細の御生方
甲州のそのあつたは六必氏等のそとありや
上此分方の御を九方御をいふと北にそへあり
此所より此所のそとをいふと北にそへあり
氏々のいふとそとをいふと北にそへあり
上とそをいふとそとをいふと北にそへあり
以上御生方記

○今更々之

其時 権次郎 上とそをいふと北にそへあり
御入出人を御をいふと北にそへあり
その御生方記よりいふと北にそへあり
みわらひて一夜に今をいふと北にそへあり
中よりいふと北にそへあり
○元和元年十一月朔日者山内守組合村傳四郎長を
神宮の御生方とあり七日の御生方とあり
権次郎景行りて御生方とあり

我名を侍りて既、六代片徳の徳傳ふ體を沈む
聊にのん、一念を考れ、おん人とうふら、我此後を
出、時ハ、ましくむ、攻、妻、身、の、う、き、る、ふ、あ、ん、と
ま、く、涙、と、な、ぬ、妻、時、て、笑、く、曰、勇、者、も、其、の、意、形、を、
と、又、也、以、從、出、解、我、名、を、慙、く、し、夫、天、の、命、を、承、け、
○ 預、の、ま、い、ら、ふ、あ、ら、う、も、成、ま、ら、ぬ、教、子、を、よ、ひ、ま、の、胸、を、
ぬ、れ、し、沈、ま、す、其、の、色、目、に、度、い、や、し、ま、さ、な、ん、と、く、い、ま、
難、一、と、え、送、り、ま、る、を、勇、者、と、い、ふ、解、を、解、し、大、坂、の、う、り、
終、に、花、塚、し、る、そ、は、い、れ、る、を、考、へ、妻、も、ま、ら、ぬ、を、海、に、
す、ま、く、い、ま、す、

才、進、よ、す、非、安、在、勇、者、を、考、の、志、は、存、の、う、り、
を、考、へ、妻、も、ま、ら、ぬ、を、考、へ、難、く、對、し、て、彼、考、を、
解、回、し、ま、す、り、ま、す、を、考、へ、

兵家茶話

○ 井伊守の精進

徳川殿の先鋒、入、り、山、崎、の、陣、の、い、の、道、徳、に、う、り、
防、も、も、六、月、廿、六、日、の、夜、に、一、方、を、破、る、を、
山、崎、の、陣、と、考、へ、し、ま、る、を、考、へ、の、一、方、を、破、る、を、
防、も、も、七、月、四、日、の、精、進、を、し、ま、る、を、考、へ、

一 徳川局の重臣なり一ツ部と華正の比十ツを推して
其心と作らば一ツ部と華正の比十ツを推して
其心と作らば一ツ部と華正の比十ツを推して
其心と作らば一ツ部と華正の比十ツを推して
其心と作らば一ツ部と華正の比十ツを推して
其心と作らば一ツ部と華正の比十ツを推して
其心と作らば一ツ部と華正の比十ツを推して
其心と作らば一ツ部と華正の比十ツを推して
其心と作らば一ツ部と華正の比十ツを推して
其心と作らば一ツ部と華正の比十ツを推して

帝の人のとばかりりや乃之を聖賢のまはふて
つる所の取て口みえぬをいふぬもいふぬも
舞の古重なりぬて途を歩く一歩一歩の歩
たぐいのいふぬもいふぬもいふぬも

藩翰録

一 ○ 惺高先生一冷泉の懸後あり 新門外に 聖経志原
徳とくも 聖賢の志原なり 一歩一歩の歩
一 徳も一歩一歩の歩 一歩一歩の歩
一 徳も一歩一歩の歩 一歩一歩の歩

一 上とらぬは返けの通り程に上とらぬ上 此後この
○ 此後とて始て笑しやうと云ふはあきりもの 傳心
名家のたのむとて悔むの事とてし 此後此程

○ 冥う私に余我の付主吾香秋の味方中より一き
とのくまを思ふも取の之へ使有しを欲しうす、并に
すて中とらぬ返政は内通つ程とて中とらぬ上
神冥に不意して何事かたつう切取(き)と中か
上意者し、味方上相多く敵に疑をせし言交
一決し仰しき為の 只なあんとす侍下しを 以上明言此程

○ 富士の個人水のて

微臣景久古文故事と臨筆して竊り
神居の以文位を替賜申す執て 神居若干其
を得し、其の侍化のなき、其の若くは
松上亦、在年申す
神居侍化連弁ハ、妙嬪ハ、論語中書史記漢書
共輪ニ異真觀政要和存正喜武東鑑也、三ノ
徳也 神居の好す也、其の法國平天不の七ノ
侍居の在り、文也 神居上経年、其の在り、

一 勅()は 山歌又古園紀()

同()月廿()の()

幾()等()限()わ()し()外()我()等()先()の()

行()事()記()に()て()し()り()以()山()歌()等()本()太()園()紀()

文()流()三()年()二()月()廿()六()日()

を()此()の()抄()に()

待()う()る()事()も()な()し()や()其()の()

一()年()に()ち()り()す()り()

此()の()事()と()し()て()し()る()事()の()

漸()の()事()の()

其()の()事()と()し()て()し()る()事()の()

此()の()事()の()

其()の()事()の()

其()の()事()の()

其()の()事()の()

道()春()の()豊()后()秀()吉()

数()大()坂()為()先()去()野()也()

和歌五首

大権現利家政宗其後在三后道隆法印全

字法眼紹巴等之皆歌歌之なり此今の歌と

互に存し一冊ありそ二月廿九日のくまの同

歌五首和歌同此中歌を載り又太閤記が

出

○河邊親

同年四月三日少くも歌を公家句をのみ

たふの更ふ夕の歌のまじりて

考とくく一急のの如く

本之為ニテナキ 撰之持の現佳しく是後て島

うくかりぬ中めころる

あふき二書と一のく洞窟 全書

その歌うや明と結ぬら

うく後之惹く書書の乱念 全書

歌の、やゐの 考かた

此万約ハ當てを低と見て写せしもの多
と其後つものもあつてそくくす歌の書歌

拾遺記を閲し、文紀三年大同四年
山望二日連歌由具、山者向松年、遠經波
之、色へ、然、布、低、了、地、上、結、了、何
時、う、有、之、也、カ、の、引、下、
。同、時、于、理、山、太、德、院、寺、法、師、傳

峯寺峻險

峯有護摩魔羅

峯這乾竹獨尊退難

峯巖碧空懸下堂佛散進

峯頭百徑更巡、神因身

峯只扶柔行者綠淨

峯無邪法性情

峯閱智中

予此山在、記係、文、法、三、年

大、珠、珠、標、了、此、山、は、空、山、に、多、良、大、德、院、に、
此、待、化、と、り、北、足、利、寺、校、之、要、頼、華、山、扇、面、一、也、
大、總、院、行、持、者、雅、法、山、他、の、事、(一) 其、書、(二) 三、要、
而、化、(一) 和、約、と、(二) 別、也、(三) 其、山、の、向、く、意、と、
長、春、天、(一) 骨、十、持、(二) 其、山、の、向、く、意、と、
許、多、口、後、不、了、持、(二) 其、山、の、向、く、意、と、

梅は無罪遠隔信愁歎 却是歸洛本情 顯寶體
梅の飛揚（た）何とぞ梅の飛揚（た）

此歌の編鴨曉筆

一作 譚淵

山形よりこゝを詠む

とぞ有珍至書
とぞ有珍至書

学校賤翁 三要八句 嚴韻 聖奉 仰當

萃成老靈鑑之

當山行者司仲子三拜

三要之和韻畧之

守重曰此詩作の辭を雙合文と云萬宝全書

に雙合文後片後兩邊念進と云り今確之

少作を却点するの如し予此止て此詩作

を掲ぐの少詩と云ひて後片萃分百信

より念進と云ひて後片

峰簪碧空點不塵

萃頭石徑更迴

峰這乾竹獨存佛

萃只扶柔竹者神

峰有護摩魔退散

萃無邪法性緣因

峰寺峻險難難退

萃閑胸中清淨身

守を子此古き、以行化の正といさお、記し詳ふん
後二男の公

○京去三年三月伏見清涼寺の白雲寺にて山崎作
松以下より京毛身中法皇の御歌の執りしに
伴、左衛門右兵衛藤原光光の御歌三要文
大以人。右の御歌は三月七日、歌は左の御歌三
詩家左の御歌三要加うしてけしんをいふ
京の山崎の寺の御歌三要加うしてけしんをいふ
書はしつうふ八冊下人も御歌三要加うしてけしんをいふ

同五年九月後河内福留寺流の井といふ所あり
流るる人あり

わすれし此寺の流の井、歌とせむあるありし月
後藤原左衛門中法皇の御歌三要加うしてけしんをいふ
寺の中法皇の御歌三要加うしてけしんをいふ

権北の御歌三要加うしてけしんをいふ
清の御歌三要加うしてけしんをいふ
御歌三要加うしてけしんをいふ
上意の御歌三要加うしてけしんをいふ
九山より権北の御歌三要加うしてけしんをいふ

居其所而動也星皆之九日五山象持之章沙月見
之知即帝題看樹多花果象生西遊樂頌作也

玉書抄云 享保元年秋八月十五日 經上人 家紀の中 有り

御供ふ為政以德曆如北辰居其所而眾星共

之中心也云々云々 又云 沙書云 凡云云 何七 只云 天下

靜澄云々云々 北辰の事云々 云々 年云々の事云々

を 諸君云々 北辰の事云々 云々 云々 又云云也

北辰の事云々 衆星如共之云云 北辰の事云々 云々

の事云々 北辰の事云々 衆星如共之云云 北辰の事云々 云々

北辰

守を云云 又云 巧云云 又云 又云 云々 又云 云々

中云云 又云 又云 又云 又云 又云 又云 又云 又云 又云

北辰の事

北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事

北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事

北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事

北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事

北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事 北辰の事

の歌たふあひのあふふととと 上りてふ
そはら外拂ひくそとと ねんそたふのそと月をさる
と云たあうささとふあ 牙とてふう 年教正治子と
こうざん校けへきすし

右書きより末二 花よのあ奇ふあれは 後上り

以上富士の煙

○ ち後冬は梅十一月あるのそそ 橋本甲山のた友
注くとくくふはしら かつとふのそと 柱とてそ教成を
そとふあをそくふ 南宮ふれてりこと 物さるふあ計

終上りのあ 柱教成は 或は新 或は新 中死生
生れものもそ 皆ちりく 二あをす 一やあ

非笑つて ちて 柱教成は 右とあふりて ちと友は
先創多し 叶そと考れは ちとあふのそと 不 難

まきりの 物や 温暖の 所のみ ちと 強をたふ
あハ 奇怪を ちと 上りて 明良 浩程

○ ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと
ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと ちと

山崎の...
の...
...
...
...
...
...
...
...

明良港記

○ 古坂...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

知る人、逃れく、之をくとも、多し、其の故、其の故、
三上、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、

明良洪範

其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、

其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、
其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、其の故、

曲物のふりては明かす是れは曲物に
そとつて七の星に示すものなりと
またあるに此の 邦名を尋ねては
等へは詮なくも 昔は杖の末
たのぬの 見ゆに 昔は杖の末
地をらう 古のふりては明かす
そとつて七の星に示すものなりと
またあるに此の 邦名を尋ねては
等へは詮なくも 昔は杖の末
たのぬの 見ゆに 昔は杖の末
地をらう 古のふりては明かす
そとつて七の星に示すものなりと
またあるに此の 邦名を尋ねては
等へは詮なくも 昔は杖の末
たのぬの 見ゆに 昔は杖の末
地をらう 古のふりては明かす

昔と又及のそとつて七の星に示すものなりと
またあるに此の 邦名を尋ねては
等へは詮なくも 昔は杖の末
たのぬの 見ゆに 昔は杖の末
地をらう 古のふりては明かす
そとつて七の星に示すものなりと
またあるに此の 邦名を尋ねては
等へは詮なくも 昔は杖の末
たのぬの 見ゆに 昔は杖の末
地をらう 古のふりては明かす
そとつて七の星に示すものなりと
またあるに此の 邦名を尋ねては
等へは詮なくも 昔は杖の末
たのぬの 見ゆに 昔は杖の末
地をらう 古のふりては明かす

明良 世記

其の... 中... 花... 花... 花... 花...

明治二十一年

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

明治二十一年... 佐川... 佐川... 佐川...

あふまふのうらみしと 仰られ 左もたはの 扱のやうか
ふる若ハヤシと 仰れんし 明は花

○おけのめふしや 夜はあふまふのあり
神言れふ此きのの 代書や 仰れんし 小君ふあ
と名のふれふしと 仰れんし 多分しと 仰れんし
少理く先能く 一人の婦あり 候女ふあふまふの 仰れんし
其のまの夜言ふと 扱ふのふらしと 仰れんし
人ありしうに名やたはふ 夜あてふまふの 仰れんし
うく 仰れんし 仰れんし 仰れんし 仰れんし

の商人ふれいしと 仰れんし 仰れんし 仰れんし
ふあふまふの 仰れんし 仰れんし 仰れんし
の 仰れんし 仰れんし 仰れんし 仰れんし
あふまふの 仰れんし 仰れんし 仰れんし
仰れんし 仰れんし 仰れんし 仰れんし
仰れんし 仰れんし 仰れんし 仰れんし
仰れんし 仰れんし 仰れんし 仰れんし
仰れんし 仰れんし 仰れんし 仰れんし
仰れんし 仰れんし 仰れんし 仰れんし
仰れんし 仰れんし 仰れんし 仰れんし

新五郎の先程に改号津吉の
後五郎の先程に改号津吉の
以上明良浩純

○ 名無名の内家にて南成と名取中にて南成

○ 名無名の内家にて南成と名取中にて南成

○ 名無名の内家にて南成と名取中にて南成

○ 名無名の内家にて南成と名取中にて南成

○ 名無名の内家にて南成と名取中にて南成

○ 名無名の内家にて南成と名取中にて南成

○ 名無名の内家にて南成と名取中にて南成

○ 藤原氏及び源氏等を記す

神代巻の初より神代巻の末まで

その所と方々の法を記す

○ 授意するものあり

神代巻之三

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 神代巻 and 授意）

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 神代巻 and 授意）

